出エジプト記の結晶の学び 第12週祭司の王国

出土ンノト記の結晶の字の		
鳥瞰	国レわられました。旧約にセレブは終にすぎまれた。 新約にセレブ 一神の音図で、おらゆる L が祭司したる L いら車の宝際があり	
	真理要点	経験適用
1	1. 出エジプト記第 19 章 6 節で神はイスラエル人に、彼らが祭司の王国となると告げられましたが、これにはどのような霊的な意義がありますか? 2. 旧約で描写されている祭司はどのようにして新約の中で成就しますか?	1. 神はイスラエル人に、彼らが祭司の王国となると告げられました。これは、国民の中でだれも、一般の人ではなく、王国全体が祭司であるということです。これは、この国のあらゆる人はただ一つの職業を持っており、それは神に仕える職業であることを意味します。 2. わたしたちは主の臨在の中にとどまるとき、神にとって祭司の王国となります。わたしたちは祭司として、神の臨在の中に生き、彼をわたしたちの分け前として享受します。それは神がわたしたちを彼の宝として享受されるようにです。これは相互の享受です。そのような事が旧約時代に存在し得たなら、まして新約時代においてはどれほど多くわたしたちの経験であるべきでしょうか!
2 日	1. わたしたちの人としての職業と霊的な職業にはどのような身分の違いがありますか? 2. 「祭司」が神の御旨に対し、いかに重要であるかを説明して下さい。	1. わたしたちのパースンについて言えば、わたしたちは神の子たちです。わたしたちの霊的職業について言えば、わたしたちは神の祭司です。わたしたちの何人かは教師、医師、弁護士であるかもしれませんが、わたしたちの真の職業は祭司です。旧約では、ある人たちだけが祭司でしたが、新約では、すべての信者が祭司です。 2. 神は人の享受が、祭司においてであることを願っています。神は人において表現されることも、また祭司においてであることを願っています。神は人の間で住まいを得ることも、祭司においてであることを願っています。全聖書において、最初から最後まで、神はただ一種類の人を欲しています。それは祭司です。聖書の中の栄光に満ちたすべての項目は、祭司の体系と関係があります。
3 日	1. 祭司はどのようにして主と主観的に接触し、また徹底的に神とミングリングされますか? 2. 祭司はどのようにしてキリストを人に供給し、また人を神との交わりの中へともたらしますか?	1. 今日、祭司として、わたしたちが神と接触するとき、客観的に彼と接触するだけではなく、主観的に彼と接触します。 わたしたちは神の外側で接触するのではなく、神の中で接触します。 いったん祭司が幕屋の中にいるなら、雰囲気、香り、シエキナの栄光でさえ彼の中へと入って来て、祭司と神とのミングリングを生み出します。 2. わたしたちはキリストで満たされ、キリストで覆われ、キリストと一になり、キリストとミングリングされているので、他の人に伝え、分け与え、供給するものは何であれキリストです。祭司は、人を神との交わりの中へともたらし、神を人との交わりの中へともたらす人です。
4 日	1. わたしたちの神に仕えるという観念はどのように造り変えられ、調整される必要がありますか? 2. 神が流れ出ることが真の奉仕であるということを説明して下さい。	1. 祭司になることは、おもに主のために何かを行なうことではなく、主によって占有されることです。わたしたちは主の臨在の中で多くの時間を費やし、彼に入って来ていただき、わたしたちを満たし、わたしたちに浸透していただかなければなりません。わたしたちが主と一になるまでは、神のために働き、真の祭司となることは決してできません。祭司の主要な機能は、働くことではなく、主の臨在の中で時間を費やし、神で満たされ、浸透され、飽和されて、ついには霊の中で主と一になることです。 2. 主の唯一の意図は、わたしたちが自分自身を主に開いて、主にわたしたちの中へと入って来ていただき、わたしたちを満たし、わたしたちと一になっていただくようにすることです。その後、「彼」がわたしたちを通して何かを行なわれます。彼がわたしたちを通して行なう事は何であれ、彼ご自身から流れ出ます。これが今日、神が求めておられる真の奉仕です。
5 日	 1.「聖なる祭司の体系」がアロンの位であるとはどういうことでしょうか? 2.「王なる祭司の体系」がメルキゼデクの位であることを説明して下さい。 	1. アロンの位は、聖なる位です。聖なる位とは、俗な事柄、この世的な事柄から主へと分離され、主に用いていただく位です。わたしたちは聖なる祭司であって、常に神の民を代表して神に行きます。聖なる祭司は、霊のいけにえを神にささげます。 2. メルキゼデクは王であり、王的な祭司でした。王なる祭司は、神からやって来て、わたしたちを顧みます。それはちょうど、メルキゼデクが神からやって来て、アブラハムを出迎え、彼にパンとぶどう酒を供給したようにです。わたしたちは神を代行して神から民へとやって来ます。王なる祭司は、神の美徳を告げ知らせます。
	1. 神の建造は、完全に祭司の体系にかかっていることを説明して下さい。 2. 召会の建造はどのようにして祭司職にかかっていますか?	1. 祭司が着た金と宝石の建造の材料は、新エルサレムの建造の材料を表徴します。 "祭司の胸当ての上に、宝石は金の網細工にはめ込まれました。金の網細工にはめ込まれた十二の宝石は、神のすべての民を表徴する一つの項目でした。これが見せているのは、祭司たちが神の建造であったこと、また神の建造が祭司たちの上にあったことです。祭司の体系なしに、神の建造はありません。 2. 召会の建造は、聖徒たちが神の御前で祭司職を担っているかどうかにかかっています。祭司だけが神に近づき、神の御座に触れ、神に彼らを通して流れていただきます。命の水は彼らを通して、他の人の中へと流れることができます。命の水の流れだけが、神の召会の実際化された建造と呼ぶことが出来ます。
まとめ	命の流れであり、数えられる奉仕とはキリストを生かし出すことによります。自分を神に捧げ、神のために働くことではなく、神	